

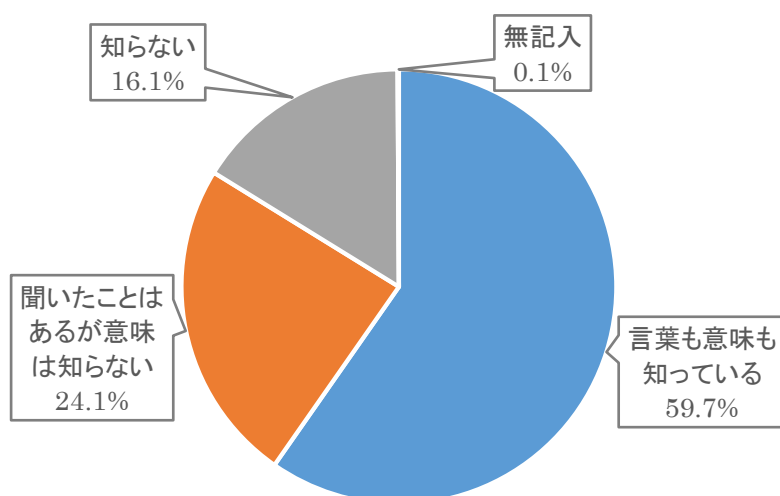
調査概要

- 調査期間 2008年6月～8月
- 配布数 1000部
- 回収数 837部
- 回収率 83.7%

調査結果

I 飲料容器のデポジットについて

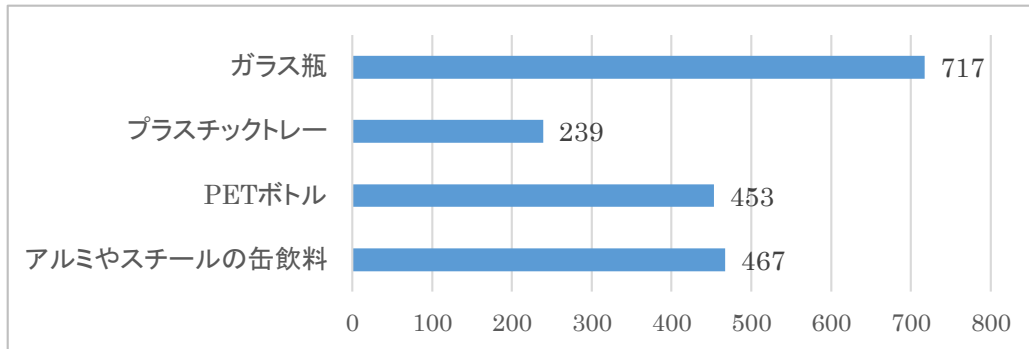
Q1.あなたは「デポジット」という言葉をご存知ですか？(1つ選ぶ)



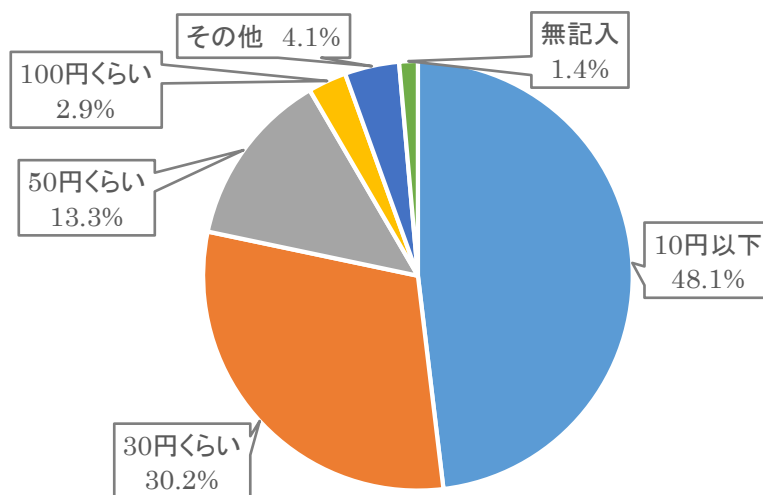
半数以上の人言葉も意味も知っているが、約4割の人は意味を知らないと答えている。デポジット制度はまだ知られていないことがわかる。

Q2.使用した容器を効率よく回収するには、料金をあらかじめ上乗せして販売し、その容器が回収できたときに料金を返却する「デポジット」と呼ばれる方式が良いといわれています。これに向いている容器は何だと思いますか？(いくつでも可)

ガラス瓶を挙げる人が85%を超え、ペットボトルやアルミ・スチール缶についてもそれぞれ約5割の人が挙げているが、プラスチックトレイを挙げた人は3割に満たない。



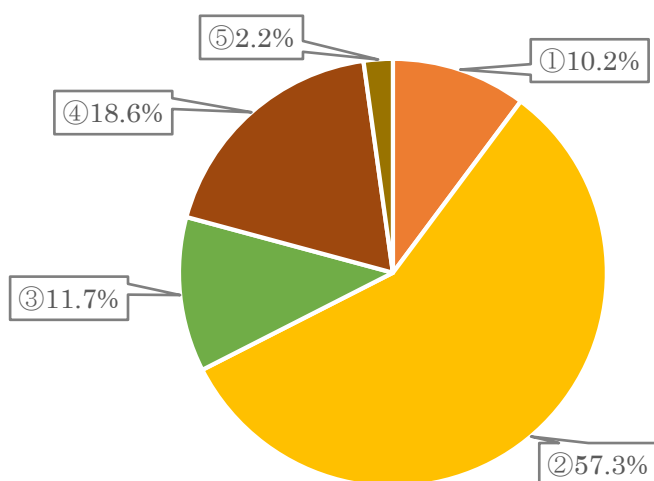
Q3.「デポジット」制度で飲み物の瓶を返す場合、あなたはいくらなら瓶を返しますか？（下記の6つから選ぶ）



10円以下を適当と考える人が半数近くを占め、50円以下が適当と考える人をすべて合わせると90%以上を占めている。高額なデポジット料金には抵抗が大きいことがわかる。「その他」では、「容器の種類(重さなど)により金額を設定する」といった意見のほか、金額よりも返しやすさを重視する意見が目立った。

Q4.あなたはデポジットで回収・再利用された容器に入った飲み物を買いますか?(下記の4つから選ぶ)

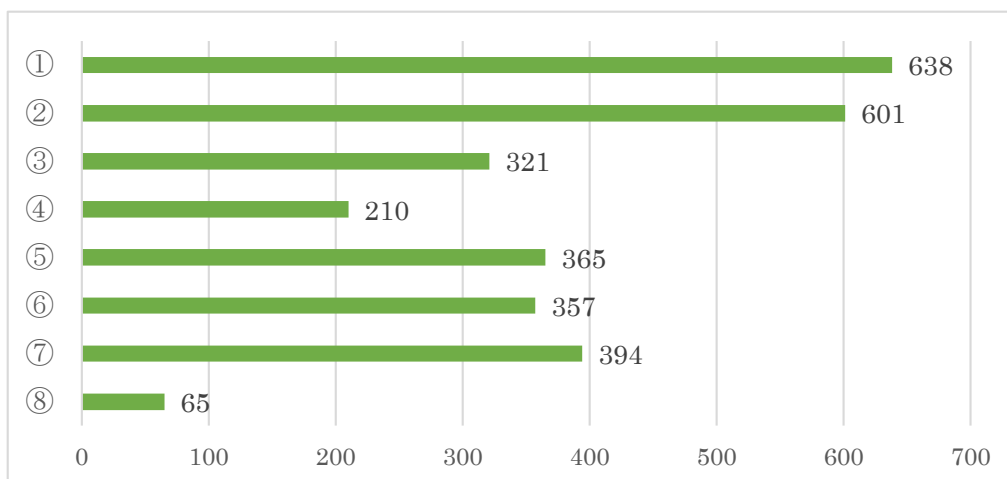
- ①ペットボトルなら、デポジットで回収・再利用された容器に入った飲み物を買うが、ガラスなら買わない
- ②ガラスなら、デポジットで回収・再利用された容器に入った飲み物を買うが、ペットボトルなら買わない
- ③新しい容器に入った飲み物しか買わない
- ④その他



ガラスは圧倒的に支持されており、“ペットボトル派”の5倍以上となった。「その他」では、ペットボトルかガラスかはこだわらず、どちらでも買うとの答えが110件(13.1%)寄せられたが、資源の有効利用の観点から進んで購入するという意見と、品質の安全性や衛生面の管理がきちんとしていればとの条件付きの意見とに大きく分かれた。

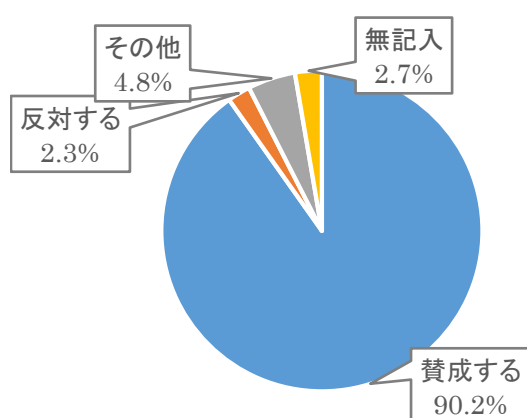
Q5.デポジット制度は、これまで日本で幅広く定着しませんでした。その理由は何だと思えますか?(いくつでも可)

- ①メーカーが本気で取り組まなかった、②行政(国や都道府県、区市町村、など)が本気で取り組まなかったから、③保管場所の確保が大変だから、④デポジット金の管理が大変だから、⑤回収場所まで持って行くのが面倒だから、⑥回収場所が限られているから、⑦地域限定の取り組みなど実施場所が限られていて、全国一斉の取り組みでないから、⑧その他



「メーカーや行政が本気で取り組まなかったから」という意見が7割を超えている。また、半数近くの人が⑤⑥⑦を選んでいる。これに対し、直接関わる問題ではないためか、保管場所やお金の管理などを挙げている人はやや少ない。「その他」では、清潔好きな国民性や関心の低さなど消費者側の意識に関する意見が多かったほか、環境貢献度がどの程度かわからないという意見や、実施情報の周知不徹底、保管・回収の手間、コストの問題などについての意見が寄せられた。

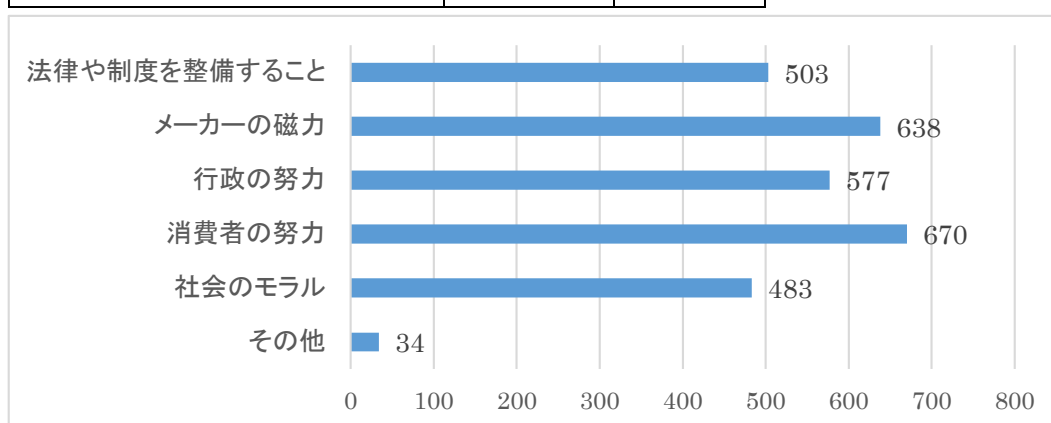
Q6.使用後の容器包装の回収・処理には、自治体の税金が使われているのが現状です。あなたはデポジット制度を導入して自治体費用の削減に役立つなら、デポジット制度に賛成しますか？



9割の人が「賛成」と答えており、ごみ処理にかかる税金の削減に関心が高いことがわかる。「その他」では、リサイクルの仕組みに納得できれば賛成という意見の一方、仕組みの実効性の模擬的な意見や、「自治体費用の削減のためなら不要」「どちらともいえない」という意見もあった。

Q7.デポジット制度を社会の仕組みとして実施する場合、必要なものは何だと思えますか？
(いくつでも可)

| 項目 | 数 | % |
|--------------|-----|------|
| 法律や制度を整備すること | 503 | 60.1 |
| メーカーの努力 | 638 | 76.2 |
| 行政の努力 | 577 | 68.9 |
| 消費者の努力 | 670 | 80.0 |
| 社会のモラル | 483 | 57.7 |
| その他 | 34 | 4.1 |



80%以上の方が挙げていて第1位となったのは、メーカーの努力でもなく、行政の努力でもなく、「消費者の努力」である。Q5で、7割を超える人が「メーカーと行政が本気で取り組まなかったからデポジット制度が定着していない」と回答したことと考え合わせると、興味深い結果である。環境のために、また税金削減のためにデポジット制度の定着が必要ならば、消費者も努力すべきだし、努力しましょう、と考えているのではないだろうか。環境に対する関心がとても高まっていることを感じる。メーカーの努力(76.2%)や行政の努力(68.9%)を挙げた人は、法律や制度の整備を挙げた人(60.1%)を上回っている。また、過半数の人が、社会のモラルを挙げている。

<自由記載>

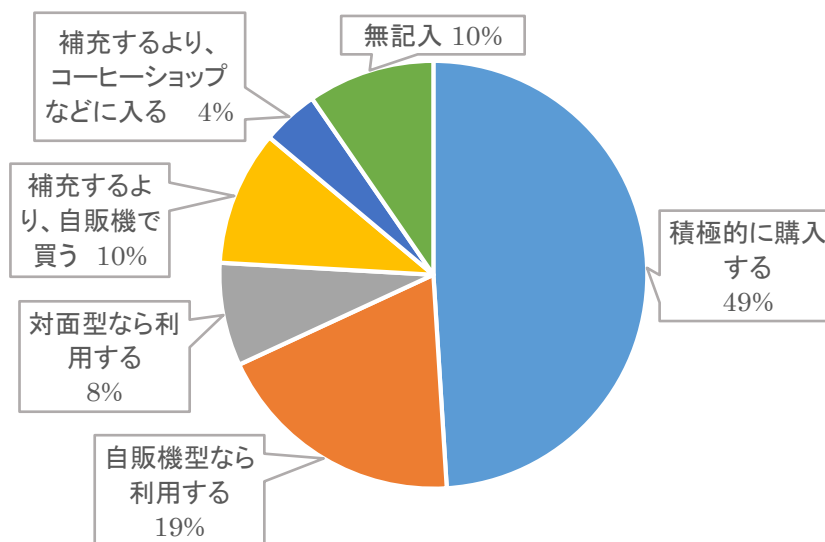
デポジット制度について自由な意見を聞いたところ、制度に賛成する意見、制度の内容についての提案、実施における課題、普及策、企業や行政への意見、消費者の意識・行動についての考え、情報提供の在り方についてなど、多くの意見が寄せられた。

それによるとやはり、この制度が環境負荷や税金の削減につながることや、仕組みが明確になること、また気軽に参加できることなどが、国民の賛同を得、制度の導入を有効なものにする上での押さえどころになっているようだ。

Ⅱ 外出時の飲み物補充システムについて

Q8.外出時の飲み物は自前の水筒に入れて持ち歩くようにすれば、環境負荷は減ると考えられます。ただ、1日分の飲み物を持ち歩くことは、重いことも事実です。水筒を持っていれば、街中のお店で飲み物がつめられるようなシステムが、一部で始まっています。街中で飲み物を補充するシステムが広がったら、あなたはそれを利用しますか？

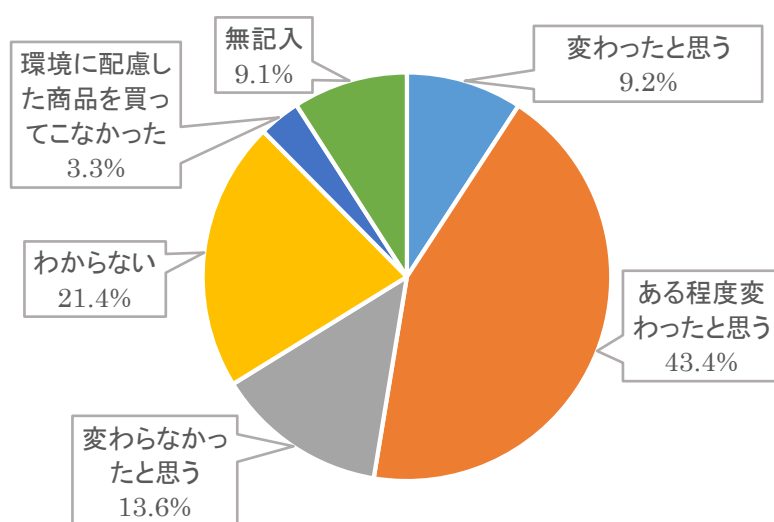
| 項目 | 数 | % |
|----------------------|-----|-------|
| 積極的に購入する | 410 | 49.0 |
| 自販機型なら利用する | 160 | 19.1 |
| 対面型なら利用する | 65 | 7.8 |
| 補充するより、自販機で買う | 85 | 10.2 |
| 補充するより、コーヒーショップなどに入る | 36 | 4.3 |
| 無記入 | 81 | 9.6 |
| 計 | 837 | 100.0 |



約半数の人が「街中で飲み物を補充するシステムが広がったら、積極的に利用する」と回答している。「自販機型なら利用」「対面型なら利用」の条件付き利用派を合わせると、75.9%、つまり4人に3人が利用すると答えている。2007年度に行った「容器包装についてのアンケート その3」でも同様の質問をしているが、この時も、積極的に利用するという人は65.6%に上がった。ただしこの時は、「対面型」「自販機型」という選択肢は入っていない点が異なる。ペットボトルは軽くて持ち運びやすいので多くの人々が利用しているが、一方では、現在のような大量消費がよくないと、どこかで考えているのではないだろうか。誰もが簡単に利用できるような「飲み物補充システム」ができれば、広く受け入れられる可能性があると思われる。

Q9.あなたが環境に配慮した商品を買ってきたことによって、環境や企業の姿勢が変わったと思いますか？

| 項目 | 数 | % |
|--------------------|-----|-------|
| 変わったと思う | 77 | 9.2 |
| ある程度変わったと思う | 363 | 43.4 |
| 変わらなかったと思う | 114 | 13.6 |
| わからない | 179 | 21.4 |
| 環境に配慮した商品を買ってこなかった | 28 | 3.3 |
| 無記入 | 76 | 9.1 |
| 計 | 837 | 100.0 |



「変わったと思う」「ある程度変わったと思う」を合わせると、過半数の人が、自分が環境に配慮した商品を買ってきたことによって、環境や企業の姿勢が変わったと感じている。自分の行動が社会を変えてきたと実感している人が半数以上いることがわかった。

これまでのアンケートでは、「あなたが環境に配慮した商品を買うことによって、環境や企業の姿勢が変わると思いますか？」と、将来への影響を尋ねてきたが、今回初めて「～変わったと思いますか？」と、これまでの変化を尋ねてみた。いわず”実績”を尋ねているので、将来への影響を尋ねるのに比べて肯定する割合が低くなることが予想されたが、過半数の人が肯定していることは、ある種の「手応え」を感じているものと考えられる。

実際、例えば再生紙を使う人が増えるにつれて、再生紙を売る店は確実に増え、入手が簡単になった。詰め替え商品も着実に広がり、今では当たり前のこととなった。このような体験から、現在の消費者は自分たちの買い物行動によって社会が変わることを実感しているのではないだろうか。